

## 1月

ジャンル	配本日	ISBN 9784591	書名	著者	予価	判型	頁数	著者紹介	内容紹介
文芸	1月15日	179703	まぼろしを織る	ほしおさなえ	1,700	四六上製	304	作家。1964年東京都生まれ。1995年「影をめぐるとき」が群像新人文学賞小説部門優秀作に。小説「活版印刷三日月堂」シリーズ、「菓子屋横丁月光荘」シリーズ、「紙屋ふじさき記念館」シリーズ、『言葉の園のお菓子番』シリーズ、『金継ぎの家あたたかなしずくたち』、『東京のぼる坂くだる坂』など。	母の死を機に生きる意味を見いだせなくなった槐は、川越で染織工房を営む叔母の家に居候していた。そこに、人気の女性画家・未都の転落死事件に巻き込まれ、心を閉ざした従兄弟の繪も同居することに。藍染めの糸に魅了された繪は次第に染織にのめり込んでいく。ある日不審な男が現れ、繪が未都の最後の言葉を知っているはずだと言う。死の謎を探りながら、槐は「なぜ生き続けなければならないのか」という問いに向き合っていく――
ノンフィクション	1月9日	180396	注文に時間がかかるカフェ たとえば「あ行」が苦手な君に	大平一枝	1600	四六並製	256	著書に『東京の台所』『ただしい暮らし、なんてなかった。』『ジャンク・スタイル』『昭和式もめない会話帖』、『届かなかった手紙』、『それでも食べて生きてゆく東京の台所』毎日新聞出版などがある。現在、『東京の台所2』（朝日新聞デジタルほか、13の媒体で連載をもつ人気エッセイスト&ノンフィクション作家。	吃音で「いらっしゃいませ」、メニュー、代金が言えず、接客アルバイトを諦めてきた若者がいる。人と話したいけど言葉がうまく出てこない――そんな若者たちが、奇想天外な1 Dayカフェを始めた。発起人は、自身も吃音症で夢に蓋をしてきた奥村安莉紗。言葉をめぐる冒険、急がない幸福。エッセイの名手・大平一枝が紡ぐ温かな感動ノンフィクション。

## 12月

ジャンル	配本日	ISBN 9784591	書名	著者	予価	判型	頁数	著者紹介	内容紹介
文芸	12月11日	179901	今日のかたすみ	川上佐都	1700	四六並製	272	『街に躍ねる』で第11回ポプラ社小説新人賞特別賞を受賞しデビュー。本作が第二作目となる。	塾講師として働いている遙は、友人とのルームシェアを解消して気落ちしていた。そこに同僚で恋人の百ちゃんがやって来る。同棲を始めるふたりだが、暮らしの中で明らかになる価値観の違いを原因に、少しずつ、しかし確実にすれ違っていき…？好きなのに分かり合えないカップルや、距離感のある父と娘、アパートの隣人同士。誰もが記憶の片隅に持つ、人と生きる日々のもどかしさや愛おしさを、優しく掬い上げた傑作短編集。